



VOCAグループ

発語がない児童生徒への挨拶の取り組み

目的

発語のない児童生徒が、主体的に挨拶できるように、サインやVOCAを活用した実践を行い、その実践内容、成果、課題を情報共有・共通理解をする。

方法

- ・各自のVOCA、音声ペン（G-Speak）、サインの実践について情報共有し、必要に応じてVOCAの制作・修理、G-Speakの録音などを行った。

研究日①（7月1日）

- ・使用しているVOCAの紹介、使用しているサインの確認

研究日②（11月1日）

- ・サイン集の見直し、VOCAを使用した実践報告

研究日③（12月2日）

- ・今年度のまとめ、VOCAの教材を紹介、3月の報告の計画



日課に関する言葉

	国語・算数
	生単
	体育
	音楽

	作業学習
	自立活動
	散歩学習
	給食

活用したVOCAやサイン

身振りサイン一覧表

令和元年度作成版

富屋特別支援学校 研修部

(令和元年度 VOCA 研究グループ)

おにぎりVOCA



- ・ 100円ショップのおにぎりケースを活用して作成したVOCA。
- ・ 10秒間録音できる。

スーパートーカー



- ・ 携帯型会話補助装置（コミュニケーションエイド）
 - ・ 録音時間：16分間
 - ・ 録音できるレベル数：8レベル
 - ・ 「携帯用会話補助装置」として、日常生活用具で給付を受けることができる。
- ＜厚生労働省・日常生活用具給付等事業の概要＞
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/yogu/seikatsu.html

G-Speak (音声ペン)



- ・ 付属のシールにペン先をあて、メモ録をするタイプのボイスレコーダー。
- ・ メモ録後にペン先でシールに触ると、録音したメモ録を再生することができる。

身振りサイン一覧表



- ・「身振りサインとシンボル＝コミュニケーション支援用絵記号の共通理解集」（平成20年度本校学習指導部作成）から身振りサインを抜粋し作成。
- ・以前作成した共通理解集のサインの中には、児童生徒の手指の動きを考慮して変形していったサインや、教師によってサインの動きが異なるものもあり、令和元年度の校内研修（VOCAグループ）で、現在校内で使用されているサインを統一、一覧表として再編集した。

サイン 活用実践例

小学部 3年4組

実態： 「おおっ。」などの発声はあるが言葉で意思を伝えることが困難である。

使用場面：

- ・ 欲しい玩具があるときにサインを出す。
- ・ 自分が当番の日に「僕が当番。」と確認するようにサインを出す。

児童の変容： 要求や確認したいことなどのサインを覚えると、繰り返し表現するようになった。

G-Speak 活用実践例

小学部 2年3組

実態：発語はないが「あー」など喃語のような発声はある。人と関わることが好きだが、一方的になりやすい。

使用場面：朝の会・帰りの会

児童の変容：

- 主体的に司会進行を行うことができるようになった。
- タイミング良くペンを操作し、友達や教員とのやり取りを楽しんでいる。
- ペンを耳に当てる等、音声に興味を示している。



G-Speak ・ 段ボールVOCA 活用実践例



小学部 1年5組

実態：ダウン症、「はい」などの発声はあるがはっきりした発語はほとんどない。

使場面：当番の挨拶、進行

お仕事に行く際の挨拶

（場面で使い分けて、G-speakと段ボールVOCAを併用して活用した。）

児童の変容

- ・朝の会や帰りの会の進行はカードの言葉を覚えて、最近ではペンでタッチしなくても「きがえ」「かんそう」などと短い言葉で伝えることができるようになってきている。ペンを使用するか聞くと、いらないと言って、進めることができる。始まりの挨拶など長い文章はまだペンを使用して、音声と一緒にサインを交えて挨拶をしている。
- ・どこかに行くときの挨拶については、その場にあったボタンを選ぶことができ、自分から押すことができるようになった。促すと一緒に「・・・、・・・にってきます。」とすることができるようになってきた。
- ・廊下ですれ違う先生にも教師と一緒に挨拶をするようになり、「こん・にち・は。」と身振りを交えながら、挨拶をすることができるようになってきた。毎日食堂で会う校長先生にも大きな声で挨拶をすることができた。褒めてもらうことでさらに意欲が高まり、自分から挨拶をするようになってきている。

おにぎりVOCA 活用実践例

高等部 2年3組

実態：発語がなく、クレーンや指差しで伝達をする。

使用場面：朝の会、給食のおかわり（2学期）、ボーリングのピンがほしい時。

児童の変容：VOCAを使い分けて、自分から意思を伝えることができた。

まとめ

- ・ 児童・生徒に合ったVOCAやサインを使用することで、主体的に挨拶をする意欲を養うことができたと思われる。
- ・ 今後も継続して、VOCAやサインを使用していくことで、より良いコミュニケーションの素地を培うことができるのではないかと考えられる。